

令和3年度

門川町立小・中学校児童生徒
第三十九回読書感想文コンクール
入選作品集

門川町教育委員会



まえがき

依然、新型コロナウイルスによる私たちの生活への影響は大きなものがありますが、学校には、普段と変わらない生き生きと学ぶ児童生徒の姿があります。児童生徒が安心して学習に取り組めていることは、先生方の感染症対策への不斬の努力と、保護者や地域の皆様のご協力の賜であると思い、心から感謝しております。

このような状況の中、今年も、第三十九回「読書感想文コンクール」が実施できることを嬉しく思います。

さて、今回も町内の児童生徒から、八六〇点という多数の応募がありました。このことから、多くの児童生徒が夏休み中に素晴らしい本と出会い、自分自身を見つめ直す貴重な機会をもてたのではないかと想像します。

本紙においては、応募作品の中から、審査によつて入選した児童生徒の作品をご紹介します。児童生徒がテーマにした内容をいくつか紹介しますと、「家族愛」「友達への思いやり」「日常の幸せ」「防災への心構え」「社会貢献」「平和への願い」等がありました。

これらの作品では、本に描かれた世界や登場人物の言動を、自分の生き方と照らし合わせ、今までの自分、これら自分の自分について、とても豊かに表現できており、大変感動しました。

これから、季節が秋から冬へと向かいます。夕暮れ時が刻々と早まるこの時期は、読書を楽しむにはとてもよい季節と言われます。また、外出自粛が求められるコロナ禍でもあることをポジティブに捉えると、絶好の読書環境にあるとも考えられます。本の中では世界中を自由に駆け回ったり、たくさんの人々と出会い、色々な生き方や考え方につれたりすることができます。秋の夜長と呼ばれるこの時期に、できれば家族でたくさんの本に触れ、本についての会話ををしてみてはいかがでしょうか。

なお、門川町には、各学校の図書担当の先生方が中心となつて選んだ「門川の子どもたちに読ませたい図書百冊」（バージョンⅠ・Ⅱ、全二百冊）もありますので、先生方お薦めのたくさんの中の本を手に取つて、一冊でも多くの本との出会いを楽しんでもらいたいと思います。

結びに、「読書感想文コンクール」の実施に当たり、児童生徒への指導並びに審査等のご協力をいただきました各学校の先生方、保護者の皆様、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和三年十月

門川町教育委員会教育長

新原 とも子

読書感想文発表会のうつりかわり…

回数	年 月 日	名 称	参加者数	対 象 者	備 考
1	59. 1.下旬	童話発表会	16	門小児童	
2	60. 1.27	童話発表会	26	門小・五十鈴小児童	
3	61. 2. 2	童話発表会	29	門小・五十鈴小・草小児童	
4	62. 1.25	童話発表会	38	町内全小学生	
5	63. 2. 7	読書発表会	37	町内全小学生	
6	元. 2.19	読書発表会	36	町内全小学生	
7	2. 2. 4	読書発表会	37	町内全小学生	
8	3. 2. 3	読書発表会	37	町内全小学生	
9	4. 2. 9	読書発表会	36	町内全小学生	
10	5. 2.14	読書発表会	34	町内全小学生	
11	6. 2.20	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 199 24	町内全小・中学生 入選者	総合評価
12	6.10.30	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 222 16	町内全小・中学生 入選者	総合評価
13	7.10.29	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 122 18	町内全小・中学生 入選者	総合評価
14	8.10.27	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 137 18	町内全小・中学生 入選者	作文評価
15	9.10.19	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 151 19	町内全小・中学生 入選者	作文評価
16	10.10.25	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 152 18	町内全小・中学生 入選者	作文評価
17	11.10.24	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 139 18	町内全小・中学生 入選者	作文評価
18	12.10.22	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 124 17	町内全小・中学生 入選者	作文評価
19	13.10.28	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 117 18	町内全小・中学生 入選者	作文評価
20	14.10.20	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 109 18	町内全小・中学生 入選者	作文評価
21	15.10.25	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 141 9	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
22	16.10.23	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 150 9	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
23	17.10.22	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 135 9	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
24	18.10.21	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 122 9	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
25	19.10.27	読書感想文コンクール 読書感想発表会	応募数 119 9	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
26	20.10.25	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 80 9	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
27	21.11.14	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 84 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
28	22.10.16	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 78 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
29	23.10.22	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 77 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
30	24.10.20	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 78 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
31	25.10.19	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 65 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
32	26.10.18	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 59 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
33	27.10.17	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 54 9	町内全小・中学生 町制施行80周年記念特別賞・ 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
34	28.10.15	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 55 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
35	29.10.21	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 47 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
36	30.10.20	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 53 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
37	元.10.19	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 55 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
38	2.10.17	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 48 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価
39	3.10.16	読書感想文コンクール 読書感想発表会	代表応募数 50 8	町内全小・中学生 最優秀・優秀賞受賞者	作文評価

もくじ

まえがき

読書感想文発表会のうつりかわり

小学校低学年の部

最優秀賞

「やさしいライオン」を読んで

優秀賞

「たいせつなみず
ま女ののろいアメ」を読んで

優良賞

まほうのて

小学校中学年の部

最優秀賞

「わすれんぼうにかんぱい」を読んで考えたこと

優秀賞

「つなみてんでんこ」をわすれない

優良賞

世界中のみんなのために
「わかおかみは小学生」を読んで

門川小学校
五十鈴小学校

四年
三年

宮原
横山
山野内
優心
ゆめ

15 14 12 11

門川小学校
門川小学校
五十鈴小学校

二年
一年
二年

堀川
請関
田端
桜
瑛奈

健太
瑚夏
10 9 7 6

2 1

小学校高学年の部

最優秀賞

自分の居場所

優秀賞

マララ・ユスフザイの勇気

優良賞

あなたへ

優良賞

「貧乏」の本当の意味

中学校の部

最優秀賞

大切な人に「ありがとう」

優秀賞

生きづらさを感じる全ての人へ

優良賞

西の魔女から学んだこと

自立

読書感想文コンクール佳作受賞者一覧

あとがき

……………

34

読書感想文コンクール審査委員一覧

……………

33

読書感想文コンクール佳作受賞者一覧

……………

33

門川中学校
門川中学校
門川中学校

三年
三年
二年

谷口
黒木
藤高

楓
慧己
葵彩

31 29 28 26

五十鈴小学校
門川小学校
門川小学校
草川小学校

六年
六年
六年
六年

佐藤
神戸
川野

輝歩
菜央
月渚

衣茉里

23 21 19 17

小学校の部

高 中 低
学 学 学
年 年 年



「やさしいライオン」を読んで

門川小学校 二年 堀川 健太ほりかわ けんた

ルブルもやさしいライオンにそだつたのだと思
います。

ぼくは、「やさしいライオン」という本を読み
ました。学校の図書室でこの本のだい名を見て、
ライオンはふつうはこわいのに、やさしいライオ
ンってどんなライオンなんだろうとふしきに思つ
たからです。

このお話は、おやがいないブルブルという名前
のライオンが、ムクムクという名前の犬にそだて
られ、大きくなつてはなればなれになつても、ブ
ルブルがムクムクのことをずっと大せつに思つ
いたお話です。

ぼくが心にのこつたことは、二つあります。一
つ目は、ムクムクのやさしさです。ふつうは犬が
ライオンをそだてるとはないから、ムクムクは
やさしい心をもつている犬なんだなと思いまし
た。いろんなしつけをしたのも、ブルブルにりつ
ばなライオンになつてほしいとねがつてあるから
だし、やさしいムクムクにそだてられたから、ブ
ルブルもやさしいライオンにそだつたのだと思
いました。ムクムクをひとりぼっちにさせないよう
に、もう二どとはなればなれにならないようにす
るブルブルは、ムクムクのことが本とうに大すき
なんだなと思います。きつとムクムクも、元気だつ
たらブルブルをまもつてあげたかつたのではない
かなと思いました。

ぼくが心にのこつたことは、二つあります。一
つ目は、ムクムクのやさしさです。ふつうは犬が
ライオンをそだてるとはないから、ムクムクは
やさしい心をもつている犬なんだなと思いまし
た。いろんなしつけをしたのも、ブルブルにりつ
ばなライオンになつてほしいとねがつてあるから
だし、やさしいムクムクにそだてられたから、ブ
ルブルもやさしいライオンにそだつたのだと思
います。

ぼくもかぞくが大好きです。ぼくがまだ赤ちや
んのころ、ハイハイでいえの外にまちがつて出て
しまつたことがあつたそうです。そのとき、かぞ
くがひつしにたすけてくれたと聞きました。ぼく
はおぼえていないけれど、今、そのことを考える
と、かぞくに大切にされてきたのだなとかんじま
す。ブルブルとムクムクがそうだつたように、ぼ

くもかぞくから大切にされ、かぞくを大切にして
いきたいです。

(読んだ本『やさしいライオン』)

たいせつなみず

草川小学校 一年 請閑 うけぜき 瑶夏 こなつ

わたしは、プリンセスがだいすきです。プリンセスはおひめさまなので、きれいなドレスをきたり、おしろでくらしたりしています。わたしは、このおはなしにでてくるプリンセスは、どんなおひめさまなんだろうとおもって、このほんをよんでみました。

プリンセスのジージーがすんでいるのはアフリカというくにです。わたしがすんでいるにほんからとおくはなれたくにです。ジージーがすんでいるところにはみずがありません。だから、ジージーはあさはやくおきて、かあさんといっしょにみずをくみにとおくまであるいていきます。わたしがすんでいるにほんでは、みずをのみたいときにすぐのめます。てがよごれたらみずであらえます。みずがあるからりようりもできます。プールもできます。だけど、ジージーはのどかかわいてもとおくまでいかないとのめません。



わたしは、このおはなしのなかで、こどもたち

もつぼをもつてとおくまであるいてみずをくみに

いくところがかわいそだなとおもいました。み

ずをくんたら、かえりはつぼがもつとおもくなつ

て、それをいえまであるいてもつてかえらないと

いけないので、すごくたいへんだとおもいます。

わたしだつたら、つかれてあるくのをやめてしま

うかもれません。

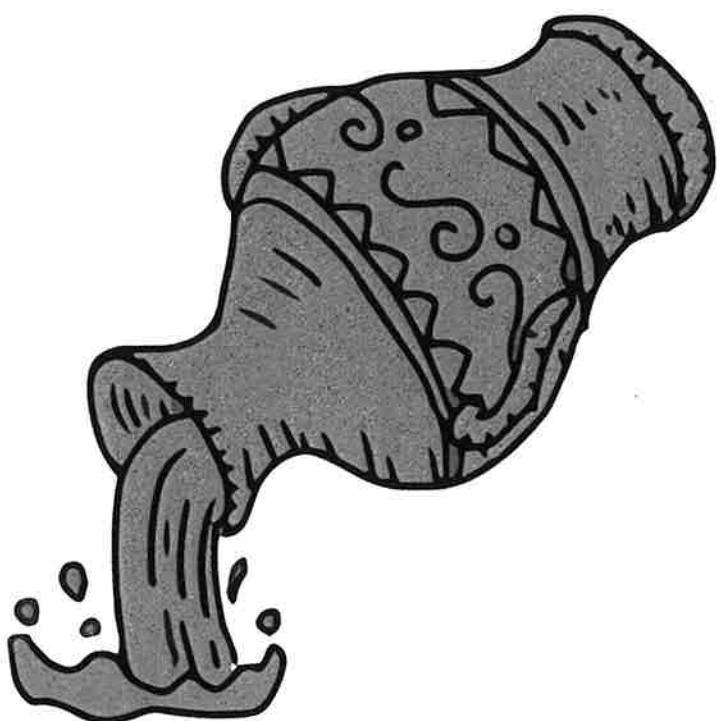
にほんは、すいどうのじやぐちをひねればみず
がでてきます。わたしがようちえんせいのとき
に、せんせいから「みずをのめないくにのひとた
ちもいるからてをあらうときはみずをとめなさ
い。」といわれたことをおもいだしました。

ジージーが「どうしてみずはにごつてるの？」

とかあさんにきいていたところもこころにのこり
ました。わたしがのんでいるみずは、とうめいで
きれいです。いつでもきれいなみずがつかえるこ
とは、あたりまえではないくにもあることをはじ
めてしりました。わたしは、これからみずをたい
せつにつかいたいとおもいます。そして、ジージー
のくにでも、きれいなみずがのめるようになると

いいなどおもいました。

(読んだ本『みずをくむプリンセス』)



「ま女ののろいアメ」を読んで

門川小学校 二年 田端 桜 たばな さくら

わたしが、この本をえらんだりゆうは、「ま女」が出てくるお話が大すきだからです。そしてだい名の「のろいアメ」がこわそで読んでみたかつたからです。

口がどんどん出でてきます。でも、のろいアメをお兄ちゃんがたべると思うとそれはいやです。きっと、さきもわたしと同じ気もちだつたと思います。なぜなら、お姉ちゃんにたすけられたときのことを思い出して、わる口を十こ言うことができなかつたからです。さきは、おこるときもあるけど、やつぱりお姉ちゃんのことはすきなんだなと思いました。

このお話には、さきという女の子が出てきます。さきは友だちとあそびに行つたお姉ちゃんのかわりに図書かんの本をかえすことになりました。おこつてかえしに行くとちゅうま女に出会います。わたしが心にのこつたところはさきがま女から「のろいアメ」を買つてしまつたところです。わたしは読みながら、むねがドキドキしました。なぜかというとそのアメはわる口を言いながらませるとどろどろのアメがかたまりそれをたべるところがおこるからです。きつづると、書いてあつたのでこわいなと思いました。

わたしは、これからもお兄ちゃんやかぞくを大切にしたいです。そして、こまつている人にやさしくしたりたすけたりできる人になりたいです。

わたしにも二さい年上のお兄ちゃんがいて、よくケンカをします。そのときははらが立つてわる

(読んだ本『魔女ののろいアメ』)



まほうのて

五十鈴小学校 一年 松本 瑛奈まつもと えいな

わたしは、「さつちゃんのまほうのて」をよみました。このほんをえらんだのは、ほんのひょうしのさつちゃんがないていたからです。まほうのてなのに、どうしてないでいるんだろうとおもいました。

このほんには、さつちゃんがおともだちにゆびがないことをからかわれて、かなしいきもちになつたことがかいてありました。わたしは、ひょうしのさつちゃんがないでいたりゆうがわかりました。かなしいきもちになつたさつちゃんだつたけれど、おともだちやせんせいにたすけられて、えがおにもどつたというおはなしでした。

このほんには、おとうさんとさつちゃんが、てをつないでかえるばめんがでてきます。おとうさんは、ゆびがないさつちゃんのてをみて、「さちこのては、まるでまほうのてだね。」といいまし。わたしは、このばめんがとてもこころにのこ

りました。それは、わたしもおかあさんに「えなのは、まほうのてだね。」といわれたことがあります。おかあさんは、わたしやいもうとてをつなぐとげんきがあるので、まほうのてだといつてくれました。わたしは、さつちゃんのおとうさんと、わたしのおかあさんのあたたかいきもちがおなじだとおもいました。

このおはなしをよんで、わたしたちはみんな、かぞくにとつてたいせつだということにきづきました。そして、ひととちがつていていいこともわかりました。これからわたしも、まわりのひとたちをたいせつにして、おともだちみんなにやさしくできるようになりたいです。

(読んだ本『さつちゃんのまほうのて』)



「わすれんぼうにかんぱい」を読んで考えたこと

門川小学校 四年 宮原 優心みやはら ゆうみ

わたしが、「わすれんぼうにかんぱい」を選んだわけは、表紙の絵が優しそうだったからです。

この本は、お母さんの病気で転校することになつたまゆみを、三年一組のみんなでまゆみに元気を取り戻してもらう話です。まゆみと三年一組のみんなは、「わすれじも」の調さやおもしろい校長先生のお話を聞いて、まゆみと元気を取り戻すのです。

わたしがこのお話で一番心にのこつたのは、昭一郎という男の子がベルトをわすれてハンカチを

ベルト代わりにしたところです。なぜ心にのこつたかというと、昭一郎は毎日一こは必ずわすれ物をするけれど、ハンカチをベルトにするなんてすごいからです。それに、そのことでまゆみをよろこばせていました。その時のまゆみは、とてもえ顔がすてきでした。

わたしがこの本で考えさせられたのは、「わす

れんぼうになろう」と三年一組の先生が転校してきたばかりのまゆみに言つた言葉です。だつて、ふつうは、「がんばつて」とか「よろしくね」と言うのにここでは、「わすれんぼうになろう」とです。でも、つづきを読むとだんだん分かつてきました。お母さんとしばらく会えないまゆみの悲しい思いをわすれさせようとしているんだなと。だからわたしは、たんにんの先生はすごい人だなど思いました。それに、まゆみをわすれんぼうにさせようと思いつくみんなもすごいなと思いました。わたしだつたら、「いっしょにがんばろう」ぐらいしか言えないと思います。だから、わたしも、その人に合っている言葉を見つけて言つてあげたいです。

わたしは、転校したことがありません。それに、どちらから転校して来た子を見たこともあります。それでも、友達に言つてあげる言葉に気をつけながら、「わすれんぼうにかんぱい」の三年一組の様な優しい人になりたいです。自分が言つた言葉が人をきずつけるかもしれないでの言葉には、気をつけたいです。これから先、もしかした

ら転校してしまうかもしれないし転校して来た子を見るかもしれません。だから、今のうちに言葉を良くしたり相手を気づかうたい度を身につけていきたいです。

(読んだ本『わすれんぼうにかんぱい!』)



「つなみてんでんこ」をわすれない

五十鈴小学校 三年 横山 ゆめ

「つなみてんでんこ」って、何だろう。聞いたことのないこの本の題名を見て、わたしはそう思いました。読んでみると、その意味が分かりました。それは、「つなみの時は、てんでんばらばらににげる」という意味でした。これは、一人ひとりが自分のいのちにせきにんを持つということで、家族がしんらいし下さい、しつかりとにげて、いのちをまもりきることで、家族全いんがなくなってしまうなどという、つらい思いをしないねがいがこめられた言葉だと、分かりました。わたしは、この言葉はひなんする時にとても大切なことを言つていると思いました。

この物語は、大きなじしんがおきたためにひつしで高い所ににげて、べつの学校の体育館にひなんすることができた話です。まず心にのこつたのは、みんなが助け合っていたところです。つなみからにげる時は、上ばきがぬげた友だちに自分の

上ばきをかす男の子や、小さい子の手を強くにぎつていつしょににげる中学生がいました。ひな

ん所では、近所の人たちが食べ物を分けていたりもしました。みんなそれぞれ大へんなのに、まわりの人のことを考えながら自分のできることを行動できていたすごいなと、思いました。

それから、男の子がお父さんとつなみから二日目の朝にやつと会えたところも感動しました。ひなん所にいる間お父さんがなくなつて、もうぼくをむかえに来ないかも知れないと、そうぞうしてこわかつただらうなと、思いました。でもここでも、中学生のお姉さんが、「だいじょうぶだからね。もうちょっとがんばろう。」と、はげましてくれたおかげで、悲しい気持ちが小さくなつたと思います。そして、お父さんに会えた時はほつとしたり、家族がいてくれるうれしさを感じたと思います。男の子が「つなみてんでんこ」をしんじたから、お父さんに会えたと思します。

このじしんの時、わたしは生まれる前でした。

わたしのお母さんは、おなかの中にお姉ちゃんがいる時で、みやざき市に住んでいたそうですが、

すぐに心ぱいしたおじいちゃんが、

「高い所に行け。」

と、れんらくして来たそうです。おじいちゃんとお母さんも「てんでんこ」が出来ていたんだなと、思いました。

わたしの家では、さいがいがあつてもにげられるように、ひじょう持ち出しぶくろを二つおいています。ほかには、近くに門川じん社があるので、たとえ家族がばらばらでいても、そこで会えるようになります。これも「てんでんこ」だと思います。

わたしの住む門川町は海が近くて、楽しい所です。でも、じしんがおきたら、たぶんつなみが来てこわいことになると想います。だから、いのちをまもるために、家族と何回も話し合って、「つなみてんでんこ」をわすれないようにしていきました。

(読んだ本『はしれ、上へ!

つなみてんでんこ』)



世界中のみんなのために

門川小学校 四年 山野内 瞬やまのうち しゅん

ぼくは、野口英世という本を読むことにしました。その理由は、今、世界中でコロナが流行つていて、たくさんの人達が苦しんで、ぼく達も去年から学校が休校になつたり、友達と外で遊べなくなつたりと、大変になつたからです。しかし、世界のみんなが一生懸命にコロナのワクチンを開発したり、生活様式や意しきをかえたりすることで、ようやくふだんの生活にもどりつつあります。野口英世も黄熱病や他の病気の研究を世界中のみんなのために一生懸命がんばつてきました。

コロナが流行つていてこの本を読んで、今も昔も病気があり、それをなおすためにがんばっている人がいて、すごいなと思ったからです。

野口英世は、福島県の村のまことに生まれました。小さいころ、左手に大やけどをし、自由に手が動かせませんでした。その事で友達にいじめられたり、からかわれたりしました。だけど、

英世は、めげずに、一生懸命勉強をしました。その努力が実つて、今度は、みんながおうえんするようになりました。人々の命をすくうために、医学の道に進み、一生懸命研究や勉強をしました。黄熱病や他の病気のワクチンや血清を開発し、世界のみんながよろこびました。

この本を読んで、心にのこつたことは、英世は、小さいころに、左手が不自由になり、その事で友達に、いじめられたけど、めげずに一生懸命勉強したことです。ぼくだったら、いじめられることがこわくて、学校に行けないし、悲しくて、勉強なんか、出来ません。「がんばる。負けない。」という強い心を英世は持つていて、ぼくにも、そういう気持ちを持つ事が大切だと思いました。

また、英世は、世界をかけめぐり、ねる時間もおしんでまで研究をしました。しつぱいもたくさんしました。くじけそうになつても研究を続けた事がすごいと思いました。ぼくは、ピアノを習っています。上手にひげず、めげそうになる事があるけど、先生や家族にはげまされて、めげずに続ける事が出来ています。英世も、たくさんの人か

らのおうえんや助けがなかつたらきつと野口英世
といふ大な研究者にはなれていなかつたと思
います。

しかし、英世のおうえんや助けを受ける事が出
来たのは、英世が一生懸命勉強し、努力してきた
からこそたくさんの人達の心を動かしたんだと思
います。研究している内に、英世も黄熱病になつ
て、たおれてしまつた時は、とても悲しい気持ち
になりました。

野口英世とぼくは、同じ人間です。

ぼくは、野口英世のようない大な人間にはなれ
ないけれど、一生懸命勉強して、人のために役立
つ事は出来るかもしれません。めげずにがんばる
ことと、しつぱいしてもあきらめずに立ち向かう
気持ちを大切にして、いつか、ぼくも、人からよ
ろこばれるような人間になりたいです。

(読んだ本『やさしく読めるビジュアル伝記

8巻 野口英世』)



「わかおかみは小学生」を読んで

門川小学校 三年 石橋 葵

わたしは、「わかおかみは小学生」というお話をえらびました。その理由は、おばあちゃんの家でこの話をテレビで見たことがあります。おもしろいなあと思つていたら、図書館にこの本があつたからです。

このお話を、事こで両親をなくしたおっこが、まわりの人たちから助けてもらひながら、わかおかみのしゆぎょうをしていく話です。おっここの家族が事こにあつたとき、おっこは、男の子のユウレイに助けられたのでぶじでした。一人ほつちになつてしまつたおっこは、おばあちゃんのりょ館でくらしていくことになりました。このりょ館には、事このときにおっこを助けてくれたユウレイの男の子がいます。名前は「うりぼう」です。おっこがこまつたときには、おばあちゃんやうりぼうなどのまわりの人たちがたくさん助けてくれます。そして、おっこは少しづつりつぱなわかおかみに

なつていきました。

このお話の中で一番すきな登場人物はおっこです。その理由は、おっこがわかおかみになるためのしゅぎょうをとてもがんばっているからです。なれない着物を着たり、歩き方やおじぎのし方を練習したりして、わかおかみになるためにたくさんしゅぎょうをしていきます。だから、おっこはりっぱなわかおかみになれたのだと思います。

わたしが好きな場面は、同じクラスの友だちと春のお祭りでかぐらをまうところです。その友だちの家もりよ館をやつていて、おっこといつもけんかをしています。かぐらのときもけんかばかりしていましたが、少しづつ相手のいいところやがんばっているところを見つけてなかよくなっています。かぐらをせいこうさせました。ぜつたいおっこ一人では、かぐらはせいこうしなかつたと思うので、なかよくなつてよかつたなと思います。

この本を読んで、一生けんめいがんばってしゅぎょうをするおっこはすごいなと思います。わたしは、自学ノートがしゅく題で出たときに、すきまが多かつたり、かんたんな問題ばかりしてしまつ

たりして先生にちゅう意されたことがあります。

三年生から自学ノートがはじまつたのであまりなれていませんが、おっこ様にあきらめずにがんばりたいと思いました。また、けんかをする友だちのいいところを見つけてなかよくなるところもすごいと思います。わたしは、新しい友だちや、あまり話さない友だちとは、すぐになかよくなれません。しかし、おっこやおっこの友だちのように、がんばっているところやすてきなどころを見つけてなかよくなつていきたいと思いました。

（読んだ本『若おかみは小学生！』）



自分の居場所

五十鈴小学校 六年 佐藤 輝歩さとう きほ

学校の前に集まる、仲が良さそうな子ども達の

表紙が気になり、私は「ぼくらの山の学校」とい

う本を手に取りました。それなのに、表紙をめく

ると、「ぼくの居場所って、ここじゃないのか？学校に
も家にも居場所がないと感じていた。」

という文章が目に飛びこんできて、私はびっくりしました。私には、家にも学校にも居場所があります。表紙はとても楽しそうなのに、学校にも家にも居場所がないとはどういうことなのか気になつて、私は、この本を読み進めました。

読み始めてすぐに、どうして主人公の壮太には、学校にも家にも居場所がないのかが分かりました。それは、壮太が、友達とふざけているところを担任の先生にかんちがいされたことが原因だつたのです。自分が悪くないのに悪者あつかいされ、周りの友達や家族との関係が悪くなつ

た壮太はかわいそうでした。壮太は、一緒にふざけてもしかれなかつた沖田君のことを許してあげる優しい人です。それなのに、誰もその優しさに気づいてあげないことが、私はくやしかつたです。私が同じクラスだつたら、

「壮太だけが悪くない。」

と、先生や周りの友達に教えてあげたいくらいです。居場所がなくなつた壮太は、偶然テレビで山村

留学センターを知り、家族と離れてそこに行くことに決めました。私は、宮崎県にも山村留学センターのような場所があるのか気になつて調べてみると、西都銀上学園という学校で山村留学が行われていました。西都銀上学園では、お花見給食を食べたり、川で釣りをしたりしていました。どの活動も楽しそうで、私もどこにも居場所がなかつたら、行つてみたいと思いました。

壮太は、山村留学をして、キャンプをしたり劇をしたり、新しい友達と楽しそうでした。壮太にやつと居場所ができて良かつたと思いました。山村留学センターには、壮太以外にもいろいろな事情で家を離れて暮らす子ども達が集まつていまし

た。私は何度も考へても、家族と離れて生活することを想像できません。壮太達のように、いい友達や優しいセンター長がいるよりも家族と一緒にいながらです。でも、山村留学センターで一年間を過ごした壮太は、家には帰らずに、次の年もセンターに残ることに決めました。一年かけて自分の居場所を作つた壮太は、また新しいメンバーでも新しい居場所を作れると思い、センターに残ることを決めたのだと思います。

私は、これまで自分の居場所について考へたことがありますませんでした。いつも居場所があるから気にしなかつたのだと思います。ひよつとしたら、私の周りにも壮太のよう居場所がなくてつらい思いをしている人がいるかもしれません。そんな人がいたら、新しいメンバーで居場所を作ろうと決心した壮太のように、私がその人の居場所を作つてあげたいです。

(読んだ本『ぼくらの山の学校』)



マララ・ユスフザイの勇気

良いことはあるのかと思いました。

門川小学校 六年 佐藤 菜央さとう なお

初めてこの本の題名を見たとき、きっとこの子のいる国では戦争が起こったのか、と思いまして。そして、私はこの子のことは知らなかつたけど、戦争について話す有名な人なのだろうなども思いました。

この本の題名は、『武器より一冊の本をください』です。主人公のマララの周りで起こつた、信じられないような、でも実際にあつたことが書いてあります。マララやマララの家族、マララの友達、マララの住んでいる国パキスタンに住む人達は、タリバンの出す禁止リストに苦します。タリバンのことをマララのお父さんは、「神の名を借りたテロ」だと言つており、禁止リストの中に、女子は学校へ行つて勉強してはいけないといふものもあります。そして、それらをやぶつたり反抗したりした人を、ひどいときは殺して、見せ物にするそうです。私は、タリバンのすることに、

タリバンの行動が、人々を苦しめる中、マララの思いは変化していきます。始めはタリバンに対して恐怖しかなく、自分をふるいたたせて生活していたマララですが、数年後には、自分のところにタリバンが来たら言い返してやろう、将来は政治の道に進んで、パキスタンを救うために紛争を解決したい、などと思うようになつていきました。

この話の中で、私が一番印象に残つた場面は、マララ達がやつと登校できるようになつた場面です。今まで、マララ達の学校も爆破されてしまうのではないか、テレビにて、パキスタンの現状を伝えているマララは、タリバンからずつとねらわれているのではないかとハラハラしながら読んでいた私は、登校できるようになつたという文を読んで、自分のことのようにうれしくなりました。それに登校の許可はタリバン指導者本人がラジオで宣言したと書いてあります。そこから、みんなの勉強したいという思いが通じたのかもと再びうれしくなつたので、この場面は一番印象に残りました。

私は、マララが強くなつたのだと思ひます。文中にも、マララがテレビに出るところを、「世界中の人がこれを見るだろう。そして気づくだろう。タリバンはマララの命をうばおうとしたが、逆にマララを強くしたのだと。」と書いてありました。マララの映つたテレビを見た人も、同じような気持ちになるにちがいありません。そして、きっとタリバンも、もう禁止リストを出すことはないだろうと思いました。

私はこの物語から、正しいことを通す勇気について考えました。マララには、「生命への愛情が恐怖に負かされてしまうなんてどうしても許せない」という強い思いがあります。だから自分を殺しにくる人がいたら、教育は私達の権利なんだということを伝えようと思えるし、自分の過ちに気づいてほしいとも思えるのだと思います。そして、タリバンのようなことをする人をなくして、楽しいことであふれる、平和な日常を取りもどしたかったのだと私は思います。

私は、優しさの混じつた勇気を持っているマララは、本当にすごいと思ひます。今、日本にタリ



パンのような人がいないのは、幸運だと思います。でも、私の周りにもある、学校のきまりなど、守らねばならないものをやぶつてている人に、いつも注意ができるいるかと言わると、私は「はい」とは言えません。だからこそ、あんなに勇かんなマララのことが本になつたのでしよう。私は、六年生だし、運営・集会委員会で、下学年のお手本にならなければなりません。だから、これからは、守らねばならない学校のきまりをやぶつている人に注意をするなど、私にもできることをマララのように勇気を出してやることをがんばりたいと思いました。

(読んだ本『武器より一冊の本をください
少女マララ・ユスフザイの祈り』)

あなたへ

門川小学校 六年 神戸 月渚

「ずっと、ずっと、だいすきだよ」

という題と同じ言葉を、伝えたい相手がいます。この本に登場する、世界で一番すばらしい犬「エルフイー」。あなたを思うと、わたしも言葉を声に出して伝えたりました。

エルフイーのあつたかいお腹をまくらにして、一緒に夢を見てねた。そんな文があります。わたしには、ラルクと名を付けた、生まれた年が同じで、目が、まんまるビー玉みたいに、大きくキラキラと光る可愛らしい家族がいるのですが、まるで私の生活の様子を表しているかとさつ覚してしまって、同じことをしてねています。とくんとくん、ぎゅるぎゅると、たまに聞こえてくる心臓の音やお腹の音が心地よくて、すぐにうとうと夢の世界へワープしてしまうのです。

リスを追いかけたり、花だんを掘り返したり、いろんな悪さをして怒られるエルフイー。ここで

「ずっと、だいすきだよ。」
そして、死んだエルフイー。家族が泣いて悲しむ中、主人公は「だいすき」といつてやつていたから、いくらか気持ちが楽だつたと表現されています。わたしが小学六年生で十二才となつた今、ラルクは人間の年令でいうと六十四才くらいです。犬の平均じゆ命は十五年と聞くので、ラルクもそんなに先の話ではないかもしません。

さよならはいつ訪れるか分かりません。明日、急に会えなくなることだつてあるかもしれません。家族だから、いつもそばにいるから、信らい関係がきて、何も言わなくても伝わる、分かってくれると思つてしまいがちです。でも、だからこそ、言わなくても分かるから言わないのではなく、しつかりと伝えたいから言葉に、声に出して伝えることが大事なのではないかと思います。大切な相手が思いを伝えられるきよりにいる、それは当たり前のようで当たり前ではないと思いまし

た。照れくさかつたり、はずかしかつたりするかもしれませんが、いつか来るであろうさよならの時に後悔しないよう、まずはラルクへ今日、この日から、

「ずーっと、ずつと、だいすきだよ」

と、毎日伝えてみようと思ひます。好きという気持ちを伝えることで、わたしも幸せになれる感じた本でした。

「ラルクへ。

あなたはわたしの大切な家族だよ。おはようも、おやすみも、大好きも、これから毎日いうからね。

いつもどんな時でも、わたしの中にはあなたがいるよ。まだまだたくさん遊ぼうね。」
（読んだ本『ずーっと、ずつと、だいすきだよ』）



「貧乏」の本当の意味

草川小学校 六年 川野 衣菜里

「貧乏」と聞いて、みなさんは、何を思いますか。

きっと、「ほんの少ししか持つていないこと」と思う人が多いのではないでしようか。私もこの「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」という本を読むまでは、そう思っていました。

この本には、ウルグアイという国のムヒカ大統領が出てきます。ムヒカ大統領は、給料の大半を貧しい人のために寄付し、公ていには住まず、自分は、ネクタイなしのシャツで大統領の仕事に向かうとても心の優しい大統領です。

しかし、世界各国や組織の代表者の人々はその格好からか、ムヒカ大統領のことあまり良く思つていませんでした。そしてそのまま、「人類

がこの先、地球の自然と調和しながら生きていくにはどうしたらよいのか、世界の貧しさをなくすにはどうしたらよいのか」という話し合いでのムヒカ大統領のスピーチが始まりました。ですが、

私たちの心のおくにある理想の世界は、ほしいものがどんどん手に入る、自分に有利で楽な世界ではないでしようか。実際、望みのない生き物などいないので、世界じゅうの人が、自分が、楽な世界になつてほしいと思つたことがあると思います。

今の文明は、何億年もの時間をかけて、私達の先祖がつくってきたとても大切なものです。その何億年もかけて人々が、より暮らしやすくなるようには小さな努力を積み重ねてできた今の世界を、

私達が、自分の欲を満たすために、簡単にこわしていいと思いますか。未来をつくって、この後生まれてくる小さな命が幸せに過ごせるようにしなければなりません。そのために、私達の生活の仕方の悪いところを見直す必要があるのです。この本には、古代のけん人エピクロスやセネカ、アイマラ族の言つたと言われる言葉ものっています。その言葉が、

「貧乏とは少ししか持つていないことではなく、かぎりなく多くを必要とし、もつともつとほしがることである」

というものです。この言葉と本の内容を照らし合

わせて、この本の伝えたいことが分かりました。

きっと筆者は、未来のことを考えて自分の欲を最小限にした生き方をして、その中で幸せを築いていくものということを伝えたかったのだと思いません。さらに、ムヒカ大統領は、こんなことも言っています。

「社会が発展することが、幸福をそこなうものであつてはなりません。発展とは、人間の幸せの味方でなくてはならないのです」

このことから、発展は私達の幸せをつくる材料であり、よりよい生活をするために欠かせないものであると分かります。

このスピーチをした後、世界各国や組織の人々のムヒカ大統領へのイメージが変わりました。貧しくても、世の中の人や未来のためにがんばつてスピーチをして、最後には、大きな手の起ころほど人の心を動かす、本物のすごい大統領なのだと、そして、そんな大統領の国の人々である、ウルグアイに住む人々はきっと、ムヒカ大統領のことを、ほこりに思っていることでしょう。私もムヒカ大統領の、あきらめない一心に心を大きく

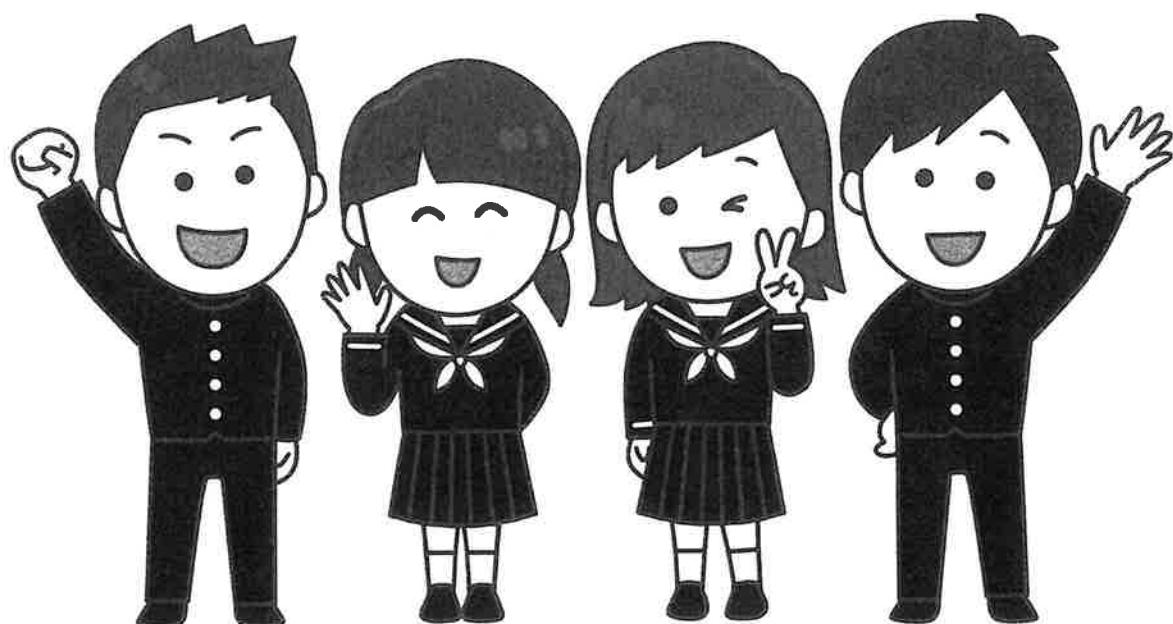
動かされました。私も、ムヒカ大統領のようにあきらめず、人の考えを動かして物事を正しい方向にもどすことができるような人になれるように、小さな努力を積み重ねていきたいです。

（読んだ本『世界でいちばん

貧しい大統領のスピーチ』）



中
学
校
の
部



大切な人に「ありがとうございます」

門川中学校 三年 谷口 楓

たにぐち かえで

の決まりには、各話の登場人物たちはもちろん、死者たちも悩まされます。

もし、もう二度と会えない大切な人に一度だけ会えるのなら、あなたは誰に会いますか。

私は今回、辻村深月さんの「ツナグ」という本を読みました。この物語は、五つの短編でまとめられています。どの話も実際に起きているように現実的で、同じ境遇にいる人も少なくないと思います。だからこそ、もし自分だつたら、と登場人物と自分を重ねながら読むことができます。

一章目には、自分が嫌いで自信が持てない女性が出てきます。彼女が心の支えとしていた人気タレントに会つてお礼が言いたいと願い、死者と生者を会わせることのできる「使者」^(ツナグ)を捜します。

この使者は、世間では都市伝説と思われていました。そして何とか使者の電話番号を見つけ出し、死者が電話に応じたときに初めて死者と会える可能性が大きくなります。しかし、一人の人間が生きている間に会うことができる死者は一人。死者も、複数の生者に呼ばれたとしても一人にしか会うことは許されません。こ

全ての人が、会いたいと願つた人に会うことができた時、皆口をそろえて「本当に生きているみたい」と現れた死者に対して、驚きを隠せずにいました。ここまで読み、私は自分だつたら誰と会いたいと思うかを考えました。死者と会えるのは一生に一度で一人だけ。そして、一晩しか会うことはできません。どれだけ生者が会いたいと願つても、死者に断られるかもしれません。私だつたら、家族だつたら、友達だつたら、誰に会いたいと願うでしょうか。

最後の章では、今まで疑問となっていた使者の正体について、使者を名乗る少年の人生について、更には、今まで読んだ物語の舞台裏を知ることができます。最後まで読み終え、私は「生と死」への価値観が、大きく変化しました。様々な立ち場の人々の

目線で考えることで、自分自身の心の成長につながると思います。

日本語には独特の優しさがあると思います。しかし、著者によつて強くなつたり柔らかくなつたりして変化していきます。辻村さんの描くツナグは、死と生とは何なのかを繊細に伝えているので、そこが魅力です。

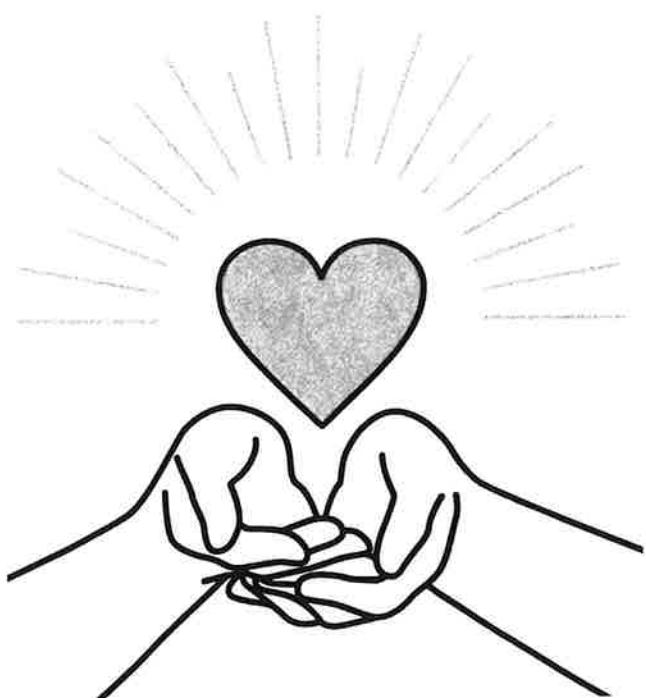
ツナグの物語を、私は今のコロナ禍に当てはめました。ニュースを見れば、今日一日でどれだけの人が亡くなつたのか、どれだけの人が重症なのかを、毎日アナウンサーが告げています。入院をすれば、家族に会うことはできません。最期くらいは一緒にいたいと願つても、顔を見ることができないのです。

ツナグの登場人物は皆、伝えられなかつた思いを後悔として抱えていました。大切な人に伝えたいことは、誰もが持つてゐるのではないか。死者は、もう二度と生き返りません。いるのが当然だと思つていた人と、突然会えなくなつてしまふのが死です。どんなに小さなことでも、感謝や自分の気持ちを伝えることは、その先での後悔を減らしていく唯一の方法だと思います。

現実に使者はいません。だからこそ、寄りそつてくれる大切な人に、自分の思いを伝えることが一番

大事なことです。身近にいる家族や友達に、まっ直ぐ向き合つて胸を張つて生きていく人になりたいです。

(読んだ本『ツナグ』)



生きづらさを感じる全ての人へ

門川中学校 三年 黒木 慧己

近年、いじめによる自殺が年々増加しており、深刻な問題となっている。社会には、自殺とまではいかずとも、生きづらさを感じている人は大勢いるだろう。この「かがみの孤城」という本は、生きづらさを感じるすべての人贈る物語だ。

この物語は、同級生から受けた仕打ちが原因で不登校となっていた主人公の中学生一年生の女の子「ころ」が、五月のある日自室の鏡が光り、その向こうにお城で自分と似た境遇を持つ中学生六人と出会うことで進んでいく。この六人の名前はそれぞれ、アキ、スバル、フウカ、リオン、マサムネ、ウレシノといい、それぞれが問題を抱えている。

この物語の中で自分は、今まで不登校だった生徒たちが、一人のために勇気を振り絞り学校へ行く場面に感動した。各々が学校へ行きたくないトラウマを抱えているのに、互いを信じ合いみんなが学校へと行つた。これはとてもすごいことだ。きっと自分にはできない。

実は、この城にはいくつかのルールがある。それは、

願いのカギを来年の三月三十日までに見つければ、見つけた一人の願いが叶う。願いが叶うと、城の中での記憶を失う。叶わなかつたら記憶は残る。城に入るのは午前九時から午後五時までで、五時までに帰らなければオオカミ様から食べられてしまうというものだ。

物語の中で、はじめはなんとなく過ごし、徐々に互いのことを見つけていき、そしてみんなは自身のことを考えるようになっていく。現状、いじめのことや今後について。そうしてあつという間に月日が過ぎ、気が付くとクリスマスを迎える、年もかわり、もう三月。それぞれが直面している問題に対して、そして、「かがみの孤城」の世界でも三月三十日までに、願いの鍵を見つけ、みつけたら鍵をどうするのか、みんなで答えを出さなければいけなくなる。この感覚は現実に似ていて、共感できた。今の自分に重ねると、受験に向け答えを出さなければいけないが、そんな先のことなんて、なんとか分からぬ。どうしたいか、生きたいように選びなさい、あなたたちは無限の選択肢があり、それも努力でつかめるなどの世間や学校のフレーズに惑う。その中で、思つた理想と、なにもできていないどうしようもなさと、でも前に進まなければならない、時間が止まつ

てくれない恐ろしさというのが小説の中の感覚と重なった。

この本は、人物の心理描写がとても上手く、実際の人間関係と同じように自然で、最初にこういう人だなと思つても、読み進めていくうちに印象が変わっていき、こういう一面もあるのかと分かってくる。こういつた描写で、キャラクターたちがみんな実在するように親しみが持てる。また、中学生特有的不安定な心がうまく描かれていて、より深く物語に入り込むことができる。

この本は自分に、今いる世界だけが全てではないと教えてくれた。そして、いじめなど辛い気持ちを味わっている人々に、無理に鬪わずには逃げてもいいと伝えたい。それと同時に、苦しんでいる人々の逃げ場があつてほしいと思う。この本を読んで自分は、今まで自分がいた世界の狭さを痛感した。だから、限界を決めず色々なことに挑戦したい。そして、主人公のような人達の痛みを理解し、優しくできる人間でありたいと思う。そして、そこから広げていきたいと思う。

(読んだ本『かがみの孤城』)



西の魔女から学んだこと

門川中学校 三年

藤高

葵彩

私は、この本の題名を見た時、西の魔女という部分に恐ろしいイメージをもつたので、怖い話なのかなと思いました。でも、この本に出てくる魔女は、主人公まいとまいの母が二人だけの時に呼んでいる、まいの祖母のことでした。

この物語の主人公まいは、中学校に入学すると、クラスにうまくなじめず、いじめを受けて不登校になつてしましました。それで、しばらく祖母と二人で自然がいっぱいの田舎で暮らすことになります。そして、そこで祖母からいろいろなことを学び、成長していくという物語です。

私は、この物語を読んでいく中で、心に残った場面が二つありました。

一つ目は、まいが祖母と魔女修行を始める場面です。魔女修行など、ほうきに乗つて空を飛んだり、呪文を唱えたりするのを想像しますが、祖母にするよう言われた修行の内容は、私の想像とはかけ離れた意外なものでした。早寝早起きをすること、食事をしつかりとること、よく運動すること、掃除

や洗濯など自分の仕事を持つこと。と、いうように、

私が当たり前だと思うようなことばかりで私は拍子抜けしてしまいました。そして、祖母はこれらを成しとげるためにこう言いました。

「いちばん大切なのは、意志の力。自分で決める力、

自分で決めたことをやり遂げる力です。」

私は、祖母の言葉が私に向けられているようを感じました。なぜなら、私はあまり自分の考えをもたず、人に流されることが多くつたからです。また、自分の考えをもつていたとしても、それを相手に伝えることをあまりしませんでした。それに私は、計画を立てても、それを最後までやり遂げられることは少なく、しなければいけないと分かっていても、明日でいいやと、後回しにしてしまうことがあります。だから、この祖母の言葉である「意志の力、自分で決める力、自分で決めたことをやり遂げる力」が心に響きました。

二つ目は、まいが祖母に「死」について聞く場面です。まいは祖母に人は死んだらどうなるのか聞きました。その質問に祖母は、

「死ぬ、ということはずつと身体にしばられていた魂が、身体から離れて自由になることだ。」

と答え、

「きっとどんなにか楽になれてうれしいんじゃないかな」と言いました。私は、この言葉をして、死ぬと

いうことは悲しいことだと思っていたけれど、それだけではないのかも知れないと考えるようになり、不思議な気持ちになりました。

この本を読んで、私は「死」について改めて考えることができました。これから先の人生を一日一日大切に生きたいし、悔いが残らないような生き方をしたいと思いました。

（読んだ本『西の魔女が死んだ』）



自立

門川中学校 二年 富高 優花

とみたか ゆうか

町全体が家族のような所だと思いました。外の世界では体験できないことが体験でき、本当にこの町があればすごく良いなと思いました。

私は、人に頼らざ生きていけるかと聞かれたらいいえと答えると思います。理由は、自分一人では何も出来ないからです。たまに、自立という言葉を聞きます。どういう意味か調べると自分以外の助けなしで自分の力で物事をやつていくこと、と書いていました。自立とはほんとにそういうことなの?、そんな人いるの?と思つていた時に読んだ本が

「365日、君にキセキの弥生桜を」

という小説でした。この本は就職活動をしていた唯一ういう人物が直接で面接官に「自分がない」と言われるところから始まります。全部お母さんの意向で育つてきた唯はこれからもお母さんの意向で生きていく、それが私の人生だと思つていました。しかし、自分がないのは嫌だと思いながら、電車に乗り家に帰つているとそのまま眠つてしましました。目覚めたきつかけは分からぬが、気がつくとそこは一年中桜が咲く弥生桜という町でした。

まず、この弥生桜という町では電気も通らず、自分で作った作物などを市場で売つたり買つたりし、

私は、この町のみんなが協力して生活している姿を見て、自立とは何か分かつたような気がします。そこで、もし自分が自立しようと思つた時、何をしようか考えました。

一つ目は、勉強をし、知識をたくさん身につけようと思いました。調べた通りの「自立」なら、知識をいかして生きていくと思つたからです。

二つ目は、いろんな経験をすることです。いろんな経験をすることで、いざという時に何かしら役に立つと思つたからです。

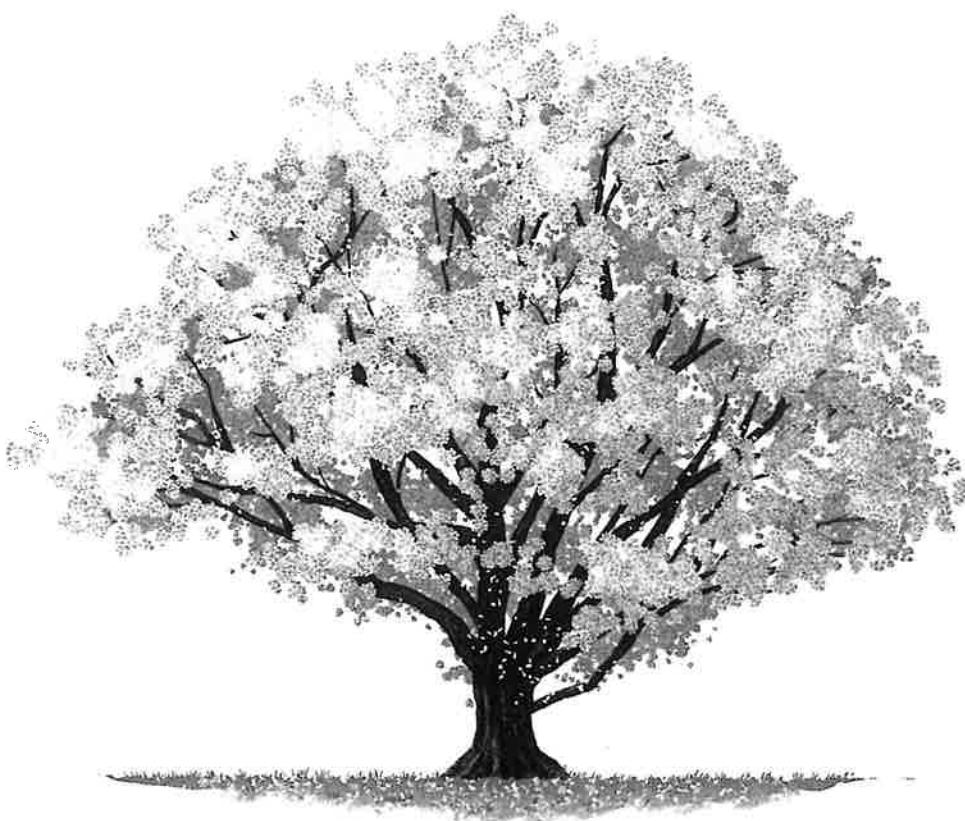
三つ目は、良い仕事につくことです。そうすればお給料もしつかりもらえ、生活に困らないと思つた。

自立しようとした時に、必ず物や人の手をかりて自立すると思います。でも、これからのことは何がおこるか分からないと思います。もしかしたら、人の手をかりことがあるかもしれません。だから、私はこの本を読んで自立とは自分以外の助けなしで自分の力で物事をやることではなく、人を頼り、人と協力しながら、物事をやつしていくことだと思いました。

最後にこの本は、人は一人では生きていけない。自分一人で物事をやつしていくにも限界がある。人は、誰かの犠牲、助けがあつて生きていけるということを教えてくれました。自分一人で物事をするより、人と助け合いながら生きていいく方が人生の中で一番多いと思います。私は、この本でとても大事なことを教えてもらつたと思います。インターネットで調べたことがすべて事実とはかぎらない、自分でこういうことではないかなと予想することも大事だと思いました。

私は、自分が思う立派な自立した人間になり、たくさん的人に頼られ、たくさんの人を助ける仕事につきたいです。

(読んだ本『365日、君にキセキの弥生桜を』)



読書感想文コンクール 佳作受賞者

小学校低学年の部

五十鈴小学校
草川小学校

二年
一年

森永 善
黒木 柚香

小学校中学年の部

草川小学校
草川小学校

三年
三年

請関 向日葵
山本 芽依

小学校高学年の部

五十鈴小学校
門川小学校

六年
五年

黒木 寿真
中田 結菜

中学校の部

門川中学校
門川中学校

一年
一年

竇田 希咲
久米 虎次郎

読書感想文コンクール 審査委員

審査委員長

門川小学校

校長

竹崎 成夫 先生

審査委員

門川小学校

佐藤 友夏 先生

草川小学校

深江 幹代 先生

五十鈴小学校

成合 雪香 先生

門川中学校

佐藤 綾 先生

門川中学校

後藤真理子 先生

あとがき

今年、第三十九回目を迎えた「門川町読書感想文コンクール」。作品応募総数は、八六〇点（小学校四〇二点、中学校四五八点）、そのうち各学校での審査を経て集まつた作品が五〇点（小学校三十六点、中学校十四点）です。出品された作品は、いずれも書き手（子ども達）の思いあふれる力作揃いでした。それら一点一点を審査員一同でわくわくした気持ちで手に取り、読ませてもらうなかで、書き手の研ぎ澄ました感性や純粹で素直な心の声を受け取らせてもらいました。

読書感想文とはいわゆる書評ではなく、「面白かった」、「感動した」などといったコメントを列挙するものではありません。入選した作品には、自分の経験や想い出に基づく歓喜や後悔、不満や充足感、憧れや抱負等々；が、ふんだんに認められています。

そもそも読書とは、本（作品）との「邂逅（めぐり逢い）」です。私達はさまざまの本と出会う中で、心が動かされ、自分の過去と今、さらに、未来に思いを馳せます。だから、文章をとおした感動は、同時に「もう一人の自分」との出会いを誘います。起こしてくれるのです。

そして、自分で駆け巡るそれらの思い、「もう一人の自分」と向き合い、「人に伝えたい」ことや「人と共有したい」ことなどを、ありのままの言葉や文で表現することこそが、読書感想文の醍醐味だとれます。

今回、審査した全ての作品から、読書が「文章を書く」ことへの意欲に結び付いていることはつきりと実感できました。それが何よりも喜ばしく、微笑ましく思えてなりません。

同時に、脈々と門川町に受け継がれている本事業の意義と成果を改めて実感することができ、心強さや頼もししさを感じる

ことができました。

ところで、読書の効果については、脳科学の世界でも次々と解説されています。例えば、読書とは、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚という五感の記憶が合わさって、言葉になる作用です。実は、これこそが、脳にとって最も大切なたらきであるため、読書は、脳にとって絶対不可欠な「刺激」だと言われます。さらに、読書による深い感動や興味を抱く体験を繰り返すことが、「筋道を立て考え、理解する力」や「話す・書く」力、コミュニケーション能力が高い「地頭」の鍛錬にもなっていくことが、数々の研究で明らかになってきています。

最後になりますが、先日、読書と家庭環境の相関に係る新聞・ニュース報道にされました。その際、ある著名人（文筆家）がインタビュー番組で語っていたことを、ふと思いつきました。紹介しますので、参考までにご覧ください。

子どもだった頃、リビングに本棚があつた。両親が読む小説・実用本・画集・辞典・漫画：ありとあらゆるジャンルが手を伸ばせばすぐに読める環境であつた。特に、母は暇さえあれば本を開き、読書を楽しんでいたのが印象的だ。そんな母だが一度たりとも私や兄に「本を読みなさい」とは言わなかつた。ただただ、ひたすら自分が本を読んでいただけ。そう、我が家にとつて「本」というのは空気と同じ様なものであった。

そのため自分も自然と本を手に取るようになり、本の世界にどんどん引き込まれていったのを覚えている。

令和三年十月

審査委員長

門川町立門川小学校長 竹崎 成夫